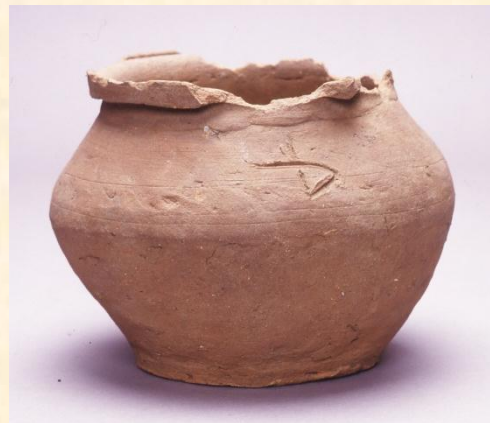


蔵骨器に転用？出土した中世の瓶と壺

きせとかいゆうこ はもんへい
黄瀬戸灰釉木の葉文瓶

つけたり とこなめふしきのつぼ
附 常滑不識壺



きよみだい きょうづか へいし ぞうこつき
清見台にあった経塚の付近から出土した瓶子と壺で、蔵骨器として使用され
ていました。瓶子は高さ 26.3cm で灰白色の陶土に朽葉色の灰釉をかけ、肩か
ら胴部に木の葉文様えがが描かれています。不識壺は高さ 15.8cm でソロバン玉の形
をしています。どちらの作品も鎌倉時代末期から室町時代初期かまくら むろまちに制作されたと
考えられています。

県指定文化財：有形文化財（考古資料）

指定年月日：昭和40年4月27日

所在地：木更津市永井作1-4-66

所有者：宗教法人 善光寺

員数：各1口

公開・非公開の別：非公開
